自立活動：「身体の動き」手作業に関する取り組み【ダジャレかるた編】 V－1

【学習指導要領自立活動編、区分５「身体の動き」（５）の作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること】

この内容は作業に必要な基本動作を習得し，その巧緻性や持続性の向上を図るとともに，作業を円滑に遂行する能力を高めることを意味している

この巧緻性や持続性の向上は、当然教科の指導にもつながります。この取り組みでは、児童・生徒の希望から内容が決まることもありますし、自立活動の担当からの提案もあり実施しています。中には、先輩の作業内容を見て自分も実施してみたいと希望を出してきた生徒もいます。学習指導要領によると以下のような、留意点もあります。

作業を円滑に遂行する能力を高めるためには，両手の協応や目と手の協応の上に，正確さや速さ，持続などの向上が必要である。さらに，その正確さと速さを維持し，条件が変わっても持続して作業を行うことができるようにする

自立活動の授業では、前半ストレッチやラジオ体操などの運動系の内容を実施した後に、手作業の内容を実施する児童・生徒がいます。このシリーズでは、そういった児童・生徒の取り組み紹介をします。

【ダジャレかるたの取り組み】

この取り組みをした、数年前に在籍していた卒業生は、身体の揺れがありましたが、独歩で学校生活を送っていました。高等部２年までの取り組みで、身体の揺れを解消するために、スクワットなどの運動の取り組みをしていたことにより、歩行の安定性は、増してきました。高等部３年では、ある程度運動課題に対する取組が定着していたので別の課題に取り組みました。卒業生は、視覚障害があり、手指も震えてしまうので、ＰＣのキーボード操作が苦手でした。音声入力にも取り組みましたが構音障害があり、上手くいきませんでした。しかし、保護者からのＰＣ技術の向上を望む要望があり、学校として取り組む必要がありました。そこで、自立活動の授業の中で、ＰＣのキーボード操作に前向きに取り組むことができないかと考え、「ダジャレかるた」の取り組みを始めました。ダジャレかるた作りは、教員と生徒の共同作業で行いました。

生徒の主な作業内容は以下の通りです。

・読み札の文面を考える。文面の内容は、すべてダジャレの内容とする。
・考えた文面をＰＣに入力する。
・読み札と絵札をラミネートフィルムにはさみ、仕上げをする。

＊苦手なキーボード操作を大好きなダジャレを考えることで、乗り越えられないかと考えました。

・生徒は、パソコン作業を苦労して行っていましたが、大好きなダジャレ作品を作っているといった気持ちにより、いつもにこやかにパソコン操作をしていました。
・作品は、お世話になった先生方にプレゼントをしました。
・苦手なことを前向きに取り組むことも、自立活動の役割です。

自立活動：「身体の動き」手作業に関する取り組み２【ドミノ･木工作業編】V－２

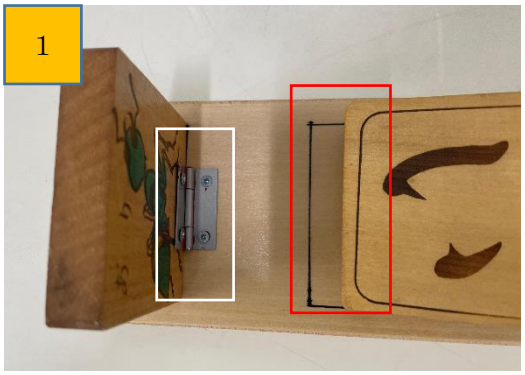
ダジャレかるた作りは、他の２ケースでも行いましたが、評判は散々でした。「だじゃれなんってやりたくない」とか、「なんでこんなことをしなければならないんだ」といった具合でした。一人に上手くいったからといって、他のケースで上手くいかないといったことは、良くあることです。そこで、次のケースには、以下のような意味付けして、やってみようと思うきっかけを作りました。

・小学部の小さな子どもたちが勉強するためにつくります。中学生のお兄さんがつくってくれたと聞いたらみんな喜ぶと思うよ。

この生徒は、落ち着きがなく注意されがちでした。自立活動室でも、決まったメニューがあってもいろいろな生徒のところに出歩くなど座っていられないといった様子でした。そこで、授業の後半に作業メニューを用意し、一回の授業で 20 分ほどの手作業を意味付けして促しました。人のためになることを授業で取り組むことは、作業するモチベーション維持につながったように思います。こういった「やろう」といった気持ちを作らないと、学習指導要領自立活動編、区分５「身体の動き」（５）の作業に必要な動作と円滑な遂行に関することの目的を達成することは難しいのだと思います。

【ドミノづくり】：生徒の主な作業内容は、片手でドミノを固定して、ねじ止めすることです。

1



2

・白枠の丁番をドライバーで４か所止める作業をしました。
・ドミノを置く位置は赤枠の中の黒枠の位置に置き、作業をしました

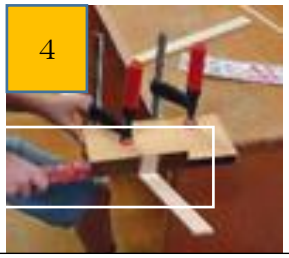
＊左記のすべてのドミノ作りを実施しやり遂げました。
＊この生徒は、現在特例子会社に就職したと聞いています。この自立活動の取り組みも、何らかの良い影響になったと思います。

【木工作業】作業内容は、のこぎりで木の切断や金槌でダボを打つなどです。

ダジャレかるた作業を嫌がったもう一人のケースには、ゲームに出てくるような洋剣を作りたいといった希望が出てきました。自分で希望した取り組みは、とても集中して取り組めていました。その流れで、次の年に、コリントゲーム作りを教員としました。この頃には、苦手だった手作業にも積極的に取り組めるようになってきました。

3

4



・写真４の板の横に磁石がついていて、のこぎりがそこに張り付く仕組みになっているため、操作しやすくなっています。

5

自立活動:「身体の動き」手作業に関する取り組み３【ウッドバーニング編】V－３

【ウッドバーニング作業１】：木製の素材に電熱ペンなどを使って文字や絵柄を焼き付ける技法

1

小学部に木工作業をしていたケースは、小学部の終わりからウッドバーニング（写真２）による作業に取り組みました。絵柄については、社会の授業で興味をもった戦国武将になり、豊臣秀吉、武田信玄などの作品をつくりました。

写真１は、ウッドバーニング（写真２）を使ってシナベニアに絵柄を焼き付けた作品（武田信玄）です。授業の前半に、バランス運動、ストレッチなど身体の取り組みをした後に、実施しました。自ら作りたいと希望した作業なので、15 分から 20 分の時間を集中して作業することを繰り返し完成させました。こういった作業的な学習を始めた頃小学部低学年の頃は、写真３のような絵柄を線に沿って、はさみで切り取る学習をしていましたが、集中力が続かなかったり、苦手意識があったりしたため、上手く切り取れないこともたびたび見られました。それが現在は、細かいところまで気に掛け、集中して作品づくりに取り組めるようになりました。

2

3

【ウッドバーニング作業２】

4

左の２作品を作っているケースは、前半ストレッチなど柔軟体操を行っています。その後に、立位台で立位保持することが主な授業内容になっています。立位保持の時間は、約 15 分から 20 分ですが、その時間に上肢を使った課題設定をする必要があり、本人と相談してその内容を決めていきました。はじめは、PC を使って、4 コマ漫画を作りたいと言って取り組んでいましたが、写真１の作品を作った 1 年先輩の作品を見て自分もやってみたいと希望し作業を開始しました。

写真４は、昨年初めて作った作品で、写真５は、現在作っている作品です。随分細やかな作風になっています。

5

中学部生徒は、身体が急激に成長する時期に差し掛かっています。中学生は、すでに論理的思考が実施できる時期になっているので、なぜ前半実施するストレッチなどの運動をする必要があるのかを理解し、家庭でもセルフケアに努める必要があります。身体を整え、学習やスポーツ活動の充実した学校生活を過ごせることを期待しています。

自立活動：「身体の動き」手作業に関する取り組み４【手作業各種編】 V－4

【学習指導要領上の位置づけ】：身体の動きと心理的安定を関連させた取り組み

このシリーズは、はじめに身体の動き（５）作業に必要な動作と円滑な遂行に関する取組を報告してきました。今回取り上げる事例は、（３）障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関することとの関連を意識した取り組みが特に大切になっています。学習指導要領には、以下のような例示が出ています。

吃音のある幼児児童生徒の場合，学校生活等においてできるだけ言葉少なくすまそうとするなど消極的になることがある。このような要因として，人とのコミュニケーションに不安感や恐怖感を抱えていることが考えられる。このような場合には，自立活動担当教師との安心できる関係の中で，楽しく話す体験を多くもつこと，様々な話し方や読み方を体験したり，自分の得意なことに気付かせて自信をもたせたりすること等を通して，吃音を自分なりに受け止め，積極的に学習等に取り組むようにすることが大切である。

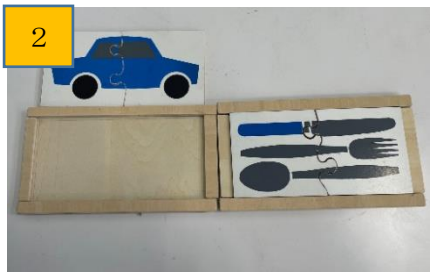
【心理的安定を図り、苦手な手作業に対して積極的に学習に取り組む態度を育てる実践】

今回取り上げるケースは、これまでの特設自立活動の時間で、バスケットボールによるシュート動作やソフトバレーボールを片手で精一杯投げるなど、全身運動を中心に学習してきました。その様子は、いつもはつらつとしていて、自信にみなぎっている様子でした。中学部に入学し担任が変わり、新たな課題について話し合いをしました。すると以下のような課題が担任から指摘されました。

・はさみを使ったり、カッターを使ったりするのに苦手な面がみられるので改善させたい。

苦手なことを実施させることにかなり心理的な抵抗感があるだろうと予測しましたが、小学部で得意なことで深めた自信が苦手なことを乗り越える力になると予測して、作業的な内容を取り入れることにしました。本人には、以下のように伝え作業をすることがプラスに働くと伝えています。

・手先が器用になり、作業に集中できるようになったら、陸上競技やボッチャの投球動作も緊張しないでできるようになるから、成績が上がるよ。



・写真１の作業では、段ボール素材の貼り付け作業でベンチ椅子の組み立てを行っています。
・写真２の作業では、やすり掛け、組み立ての際の両面テープ切り取り、貼り付けで型はめ教材の外枠を作っています。
・写真３の作業では、木工ボンド塗り、ダンボール組み立て、クラフトテープ取りつけをしてよつ這い保持装置の組み立てを行っています。

はじめは、作業に対して不安の声をあげていました。しかし、そのうちに出来栄えを褒められるとモチベーションが上がるようになり、集中して作業に取り組めるようになってきました。そして完成した作品を希望のあった担任に届けにいくと、とても感謝され、満足げな表情になっていました。

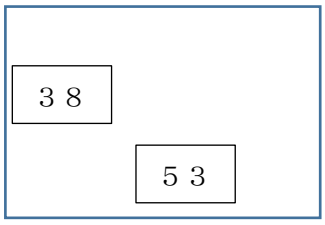
自立活動：「身体の動き」手作業に関する取り組み５【ジグソーパズル編】V－５

【学習指導要領上の位置づけ】：身体の動きと心理的安定を関連させた取り組み

自立活動の授業は、教科書がないので、児童・生徒の実態や興味に即して授業内容を決定しています。児童・生徒は、自分の気持ちを表情や手を少し伸ばすなどで表現したり、言葉ではっきりと伝えたりします。それを教員が汲み取って、内容として取り入れます。このことがとても大切なのです。学習指導要領には、以下のような自立活動の指導目標があげられています。

学校の教育活動全体を通して，児童生徒が障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要とされる知識、技能、態度及び習慣を養い，心身の調和的発達の基盤を培うことによって、自立を目指すことを示したものである。ここでいう「自立」とは，児童生徒がそれぞれの障害の状態や発達の段階等に応じて、主体的に自己の力を可能な限り発揮し、よりよく生きていこうとすることを意味している。

この主体的に自己の力を可能な限り発揮するためには、自分の希望を教員に伝えることがとても大切だと考えています。本人からの希望は、「500 ピースのジグソーパズルを作りたい」でした。それまでの座位での取り組みは、パソコンを使っての活動でした。面白い動画を探しそれを周りの教員に紹介するといったことや得意な〇〇ゲームで教員と勝負するなどの取り組みを行っていました。パソコン以外で手先を使った取り組みができないかと考えていたところジグソーパズルを作りたいと申し出がありました。



本人の希望は、500 ピースでしたが、500 ピースのジグソーパズルのサイズを調べてみると縦 38 ㎝、横 53 ㎝でした。少々大きいと感じました。そこで 300 ピースのサイズを調べてみました。サイズは、縦 26 ㎝、横 38 ㎝で、本人の実態に合っていると判断し、300 ピースのジグゾーパズルの作製を始めることにしました。写真１が完成させた作品です。

300 ピースのパズルを作っている様子から、２学期には、1000 ピースのパズルを作製するように勧めてみました。本人は歴史的建造物に興味をもっているので宇治の平等院（写真２）に、本人の同意を得て決定しました。パズルのサイズは、300 ピースパズルで作製した作品と同サイズです。一つ一つのピースの大きさが概ね 3 分の１になります。写真３は、300 ピースのパズルピースと 1000 ピースのパズルピースの大きさを比較したものです。

授業をする中で、細かい手作業に取り組む本人の様子を見て、関わる教員は、みな驚きの声を上げています。そして賞賛の言葉が繰り返し、本人に伝えられます。こういった取り組みが、本人の自信になりいろいろなことに、前向きに取り組む態度を育てることにつながっているのだと考えます。また、この見比べる力は、学校生活の中で様々なことで発揮しています。先日は、同級生の車椅子の背もたれのパイプに亀裂が入っているのを見付けてくれました。